

厚生労働副大臣
衛藤晟一

日本国厚生労働大臣の尾辻秀久が所用のため、私、厚生労働副大臣の衛藤晟一が代わってあいさつさせていただきます。

「グローバル化と若者の未来に関するアジア・シンポジウム」の主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、アジアから13か国の政府代表のみなさま、さらにはアジア各国及び日本の労使等関係団体のみなさま、そしてこの問題に興味をお持ちのすべてのみなさま、この「グローバル化と若者の未来に関するアジア・シンポジウム」にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、ソマビアILO事務局長とヒンケル国連大学学長におかれましては、本シンポジウムの共催者としてご協力いただくとともに、ご講演をしていただくこととなり、ありがとうございます。

日本とILO及び国連大学の共催により、アジア各国からハイレベルの参加者をお招きして行うシンポジウムは、史上はじめてのものです。こうした会議を日本において開催することができますことを、大変光栄に思っております。

さて、本シンポジウムでは、2日間にわたり、グローバル化と若者の未来をテーマに進めてまいります。グローバル化が急速に進展していく中で、そこから得られる利益を、どのような形で世界のすべての人々が分かち合えるようにしていけるのか、また、そうした環境の中で、若者の雇用問題についてどのように取り組んでいくべきかということについて、アジア独自の視点を加味しながら、じっくりとご議論いただきたいと思います。

我が国においても、これらの課題は、大変重要になってきております。とりわけ将来を担う若者が、その能力を十分に発揮できる環境をつくることは、若者自身にとって、ひいては社会全体にとってもっとも重要な課題の一つであります。その解決のためには、若者が自ら能力開発を進め、経済社会の求める知識、技能を獲得していくため努力を積み重ねるとともに、これを支えるために政府、労使、国際機関など関係者が協力して支援を行っていく必要があると思います。

本シンポジウムの議論が、我が国を含め、各国の政府、労使、国際機関の取組のあり方について、一つの方向性を見出すことができるものと確信しております。みなさまの豊かな見識と経験をご披露いただき、このシンポジウムを通じて、「公正なグローバル化」の実現及び若者がいきいきと働き開花する社会創造をめざして、実り豊かな議論が行われますことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。